

第2回第2次防府市図書館サービス振興基本計画策定協議会 会議記録

- 開催日時 令和2年10月9日(金) 午前10時～11時30分
- 開催場所 市役所1号館3階 南北会議室
- 出席人数 9人
- 概要 (発言要旨の文書表現は、簡略化しています)

◎資料確認

◎会長挨拶

議題「第2次防府市図書館サービス振興基本計画」(素案)について
パブリックコメントについて
その他

《事務局》

資料の説明

- 事前郵送資料

資料1	第1回会議の際の意見をまとめたもの		
資料2	第1回会議後に頂いた意見をまとめたもの		
【素案】	<table border="0"><tr><td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</td><td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</td></tr></table> を反映させたもの。	資料1	資料2
資料1	資料2		

- 当日配布資料

資料3	【素案】についてのご意見をお聴きし、まとめたもの
【素案 10.9】	資料3の意見を反映したもの。

(1) 第2次防府市図書館サービス振興基本計画の素案について

資料1

について説明

資料2

について説明

資料3

について説明

【質疑応答・意見】

(委員) 大・中項目については前回はふまえて変更しないという方向だが、内容が重複しているところもあるので、今回は整理をした方がよい。

災害に対してどのように対処していくか、持続化計画というものが言われているが、危機管理の関係が、1(2)に入っている。どこに入れるか難しい面もあるが、次回に向けて検討してもらいたい。

(委員) コロナ禍によって、大学の講義は基本的には遠隔なのだが、リモートという発想が大学図書館には入ってきている。公立図書館は不特定多数の利用者に対してリ

モートというのは難しいかもしれないが、今後劇的に変わっていくだろうから、電子書籍や、図書館に来なくても、わっしょい文庫が来なくても受けられるサービスを模索しておかなければ、先細りになってしまうのではないか。

(委員) 今の電子書籍の図書館での状況は？

コンテンツの内容はあまり豊富ではないようだが、そのあたりの説明を。

《事務局》 現在公共図書館に入っているのは、図書館流通センターのものが圧倒的に多い。タイトル数は、全部で9万6千タイトルである。紙媒体で発売されるものは年間7万5千タイトルあるので、図書館に貸出用の電子書籍のコンテンツはまだまだ少ない。年間では5千タイトル程度しか増えないとのこと。

(委員) 大学は、紙媒体より電子媒体。電子ジャーナルが普及している。

防府の場合も郷土資料は電子化して、図書館のデータとして見ることが可能になっている。

《事務局》 毎年1刊発行している『防府史料』については、PDF化して、ホームページで公開している。

(委員) 萩は、新館の開館以来導入しており、今年度、光、下松、宇部が導入をする予定ということで、防府も検討してもらいたい。

電子化の関係で、図書館でもタブレット端末への対応を検討する必要があるのでは。

《事務局》 来年の冬、パソコンの更新予定があるので、館内貸出できるようなタブレット端末の提供を考えている。

(委員) p 28「将来設置が検討されている学校図書館支援センターとの連携…」とある。現在図書館管理室がその機能を持っているが、設置が検討されているというのがどうということか。

《事務局》 学校図書館を支援していくためには、行政と、学校の先生、図書館員がそろってないと難しい。今時点では、図書館管理室には、司書、学校図書館コーディネーター、行政も入っていて、図書館とも連携・協力をしており、機能はすでにある状況である。それが今後とも続いていくように、学校図書館支援センターが将来設置されるように検討すべきであるという記述としたい。

(委員) 図書館と、学校司書だけではなく、学校教育に関わるには、先生の力が必要。調べ学習などをするためには、司書教諭の動きを加えていく働きが必要では。

(委員) 次回までの検討課題ということでお願いしたい。

(委員) アクティブシニアの定義の中で、「社会的なシニア」とは？
アクティブシニアがボランティアに入っているのはどうか？いい意味での人材活用なのではないか。
子ども読書の部分で、ビブリオバトル、ライぶらりが入って素晴らしい。アニメーションが国の読書計画の中に入って来ているが、ここは事例としては上がらないか？

《事務局》 定義は、現代用語の事典を参考にした。いろいろなとらえ方があるが、今回はこのようにまとめた。

(委員) 例えば、自分史講座を指導するような人材とか、広い意味でのボランティアではあるのでは？「社会的なシニア」はやはり気になる。

《事務局》 検討する。

(委員) アニメーションは付け加えるとしたら、脚注がいるだろう。

《事務局》 アニメーションについては、学校で授業として取り組まれていると聞いている。図書館の行事としてどうしていくかということは、検討としたい。

(委員) 山口県の計画にも入っているので、外すわけにはいかないと個人的には思うが、入れるかどうかは、図書館の方たちがどうされるかでは。

(委員) 図書館でもアニメーションの活動をしている方にきてもらって話をしてもらったことがある。アニメーションにも触れていたら良いのでは。
p 31の7 (1) オンライン配信とは具体的には？

《事務局》 バリアフリー法の関係で、検討していくとしたが、まだはっきりとはしていない。

(委員) 図書館の職員が絵本の読み聞かせするところを録画して、オンライン配信する図書館も出てきているが、そういったサービスを実施するとしたら、著作権、肖像権

の問題等があるので、今後の検討課題としていただきたい。

(委員) p 24に地域の人々と手を携えて…とあるが、ボランティアをしている人が、現在行事がなくなっているのに、その人たちに声をかけたら図書館のために動いてくれるのでは。

p 31に障害者や高齢者にやさしい図書館とあるが、外国人にやさしいという観点はなくてよいのか。

《事務局》 p 26. 27で多文化理解に触れてはいるが、国際理解を深めるために対策をする図書館ということで、委員の言われる観点とは異なっている。

以前は図書館によく外国人の利用者が多かったが、最近はあまり来られていない。サービスについては、検討課題としたい。

(2) パブリックコメントの実施について

今後のスケジュール等を事務局より説明。

(3) その他

次回の会議の予定など、(2)で説明済。